JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(1)



第222号 2023年1月10日 年4回 1·4·7·10月の10日発行 1部500円

発行所:JIC 国際親善交流センター 発行責任者:伏田昌義

http://www.jic-web.co.jp

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区新宿 1-10-5 岡田ビル 6F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-2-22 NS ビル 5F TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



## あけましておめでとうございます

本年も 丁一 をよろしくお願いします!!

# C HOBBIN 2023 - IM TOHOM!!



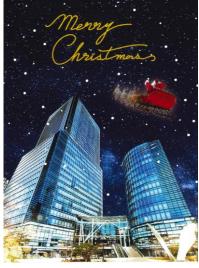


際交流誌











表紙写真;パートナーから届いた新年カードより

https://www.jic-web.co.jp

JICでは、Jクラブ(JIC友の会)会員を募集しています。 年4回の情報満載のインフォメーションをお届けします。 JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(2)



## JICスタッフより新年のご挨拶

## 「希望」はどこにあるか?

### 謹賀新年! 本年もJICをよろしくお願い申し上げます。

\*1月号恒例のスタッフ新年あいさつ。今年のテーマは、「希望」です。

コロナ禍の2年間をしのぎ、何とか希望が見えてきた22年初頭に、今度はウクライナ戦争の勃発でJICは再び絶望の淵に立たされました。以来、私たちはJICを維持し、生き延びるために必死の1年間を過ごしてきました。何人かのスタッフがJICを去り、残ったスタッフも関係会社に出向したり、失業給付を受けたりしながらJICを支えてくれています。このスタッフたちの献身がJICにとっての現在の希望です。これが将来の希望に結びつくのかどうか、まだ結果は何とも分かりませんが、ともかくもJICはしぶとく生き続ける希望を失っていません。

危機の中でも私たちの生活は続きます。日常生活のちょっとした変化や新しい挑戦のなかでスタッフたちが感じた ささやかな「希望」をどうぞ一緒に味わってください。

本年も、ジェーアイシー旅行センターおよび国際親善交流センターをよろしくお願いいたします。

## 3年ぶりのロシア訪問

## 一番大変だったのは日本の空港での税関による所持金検査でした!

杉浦 信也(ジェーアイシー旅行センター代表取締役)

昨年10月末から11月上旬にかけてロシアとバルト三国を訪問してきました。2019年11月以来なので、コロナ禍が始まってから3年ぶりのロシア訪問でした。現在、モスクワやウラジオストクへの直行便は運休となっているため、今回はアシアナ航空で成田から韓国インチョン経由でタシケントへ行き、そこからウズベキスタン航空を利用してモスクワに入りました。

\* \*

3年ぶりのロシアは、気が抜けてしまうほど以前と変わらない様子でした。 もちろんウクライナへの侵攻に伴う制裁による物価高や9月に発令された部分動員令の余波をロシアの人たちは感じながらの生活であるとは思うのですが.....。

私がモスクワに到着したのは 10 月 30 日。ロシアビザもコロナ前と変わらず無事発給され、出発直前の 10 月 21 日からPCR 検査による陰性証明書の提示もロシア入国に不要となりました。到着前に機内で渡される健康カードは到着便や滞在予定を記入する程度の簡易なものでした。

\* \*

今回の訪問で一番大変だったのは、成田空港での税関の検査でした。昨年4月からロシア制裁の一環として日本からロシアへの支払手段(日本円や外貨紙幣)の持ち出しが許可制

となりました。それに伴い空港でチェックインをする際に目的地がロシアであることが予約記録でわかると、税関の担当者が呼び出され、所持金の検査を受けるシステムになっています。私も成田空港の出発階にある税関の小部屋に連れていかれ、所持金額やロシア国内での宿泊予定などを聞かれて、審査に30分以上の時間を要しました。



とはいえ今回導入された「支払手段の許可制」には大いなる例外があり「ロシア連邦に滞在する日本の居住者が、その滞在に伴い通常必要とする支払に充てられるもの」については財務大臣(税関長)の許可を受ける必要はないとされています。ここで言う居住者は、日本国内に住所又は居所を有する者を指して

いて、非居住者とは海外に留学や仕事で2年以上滞在を予定する者のことなので、実際上は日本からの渡航者のほとんどは、紙幣など支払い手段の許可を受ける必要のない者に該当します。

もともとこの制度は、プーチン政権のウクライナ侵攻を支持するロシアの高官やオリガリヒ (新興財閥) に資金が渡らないようにするための措置で、一般のロシア渡航者には本来 無関係なものと言えます。私が空港で税関の係員から質問を JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(3)

受けた事項も、上記の「ロシアでの滞在に伴い通常必要とする支払い」の範囲内かどうかを確認するためのものでした。

現在、ロシアではVISA、AMEX、JCB など日本で発行したクレジットカードは利用できなくなっていて、現金で支払わなければいけない場面が多くなっていますが、私の場合は、日本出発前に宿泊ホテルや移動の鉄道、ペテルブルグからバルトのタリンへのバス代など滞在に必要なほとんどのものは支払い済でした。仮に現地で現金で支払うことにしていたとしてもとくに問題は生じなかったと思われます。

一方、短期滞在で来日するロシア人旅行者にとっては、許可なしで日本から持ち出せる紙幣の額は 10 万円相当額以下のものとされていて、こちらは少々大変です。ロシアの方々も自国で発行したクレジットカードは日本で利用できなくなっていてお土産や食事代など少し予定が変わるとオーバーしてしまいそうです。

日本から出発される方でも所持金が高額で「滞在に伴い通常必要とする支払い」の範囲内かどうか心配な方は、事前に出発予定の空港の税関に問い合わせをしておいた方がよいかもしれません。また、所持金が多額でない人も、現時点ではロシア行きの方は全員、税関担当者による所持金の審査を受けることになっていますので、出発予定時間の2時間前程度には空港でのチェックインを受けることをお勧めします。

\*より詳しくは財務省の下記のWEBサイトを参考ください。

■ 財務省 ロシア連邦向け支払手段輸出について

https://www.mof.go.jp/policy/international policy/gaitame ka wase/gaitame/ukraine\_info.html#

■ 支払手段等の輸出又は輸入の許可申請手続の概要 許可 申請書

https://www.mof.go.jp/policy/international policy/gaitame ka wase/gaitame/economic sanctions/shinsei 5.pdf

■ 駐在員や同国への留学期間が2年以上の留学生用 支払 い手段許可申請手続きの簡素化

https://www.mof.go.jp/policy/international\_policy/gaitame\_kawas e/gaitame/economic\_sanctions/leaflet\_exportmop\_russia.pdf

\*今回、ロシアの訪問中にJICのTwitterに行く先々で空港での出発の様子や現地の様子を紹介しました。ルートは成田ーインチョン空港ータシケントーモスクワーサンクトペテルブルグータリン・エストニアーラトビアーリトアニア・ヴィリニュスーヘルシンキー羽田空港でした。2022年の10月31日ら11月11日のツイートを覗いてみてください。旅行中の出入国や現地の様子を見ていただくことができます。

◆サンクトペテルブルグからバスでエストニアのタリンへ移 動

https://twitter.com/twiJIC/status/1587833864658919424?cxt=HHwWgICllZefj4ksAAAA

◆帰国時 羽田空港 11 月 11 日 オンラインで「検疫」「入国」「税関申告」の手続きを行うことができる Visit Japan Web が始まりました。

https://twitter.com/twiJIC/status/1590974130886569984?cxt= HHwWgMCj5d2io5QsAAAA

## いつかはまた、大玉の裏側まで

百瀬 智佳子(JIC 東京)

新年おめでとうございます。

思えば一年前の1月には、今年こそはコロナよ、落ち着け! そして旅人の皆様が無事世界に飛び立つことが出来ますように……と祈りつつプランの検討などしていたものです。

「一番身近なヨーロッパ」と JIC でも宣伝していたウラジ



昨年遠くから来てくれた人

オストクが遠い場所となり、ずいぶん経ちました。 かつては直行便で2時間 ほどでしたが、今ではと ても当日のうちには着け ません。

遠いなあっ...・遠近 の感覚って、変わるもの ですね。

空間的な距離。
所要時間。

別安时间。

さらにオンラインの関 係も入ればもはやカオス。

JIC で働き始めた前世紀末、海外はとても遠いものでした。 飛行機でわずか2時間で着く街でも情報は少なく、地図とい えばガイドブックを頼るしかなく、ロシアなど本もあまりな く。何より電話で話すことが難しい。現地のガイドからお客 様が息災で観光を楽しんでおいでと連絡が入るとほっとした ものです。

その後インフラが発達し、情報共有がオンタイムで自在になり。私の全く個人的なイメージではかつての地球をバレーボールとするならばゴルフボールくらいに縮んだ気がしていたのだけれど......。今やもう、大玉送りの玉みたいです......

なんてぼんやりと考えていた私ですが、昨秋から左踵に不 具合が生じ、歩く速さは七割程度、階段を厭うようになりま した(気長に待てば治るとのことで徐々に回復しています)。 すると突然、生活圏内の店や駅が遠くなりました。坂の上に JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(4)

ある店など遥か彼方。頑張って辿り着けばイベント感まであり、ハイになって買いまくりです。帰りは下りだけれど荷物多し.....。

小学一年生並の行動範囲となり日常の距離感までもあやふ やになる日々ながら、けれどいつかはまた、大玉の裏側まで も行ってみたいと思っています。



桜の通り抜けで(22年春)

## 「希望を託す」には早すぎる

小原 浩子 (JIC 大阪)

希望という言葉は小学生の卒業式の「別れの言葉」以外で 自分から言う場面はなかったのですが、あらためて考えると 希望という言葉の響きはキラキラしていて現実離れしている ように思われて、自分事として使うような言葉にはならない のかなと。どちらかと言えば、若い世代に希望を託すという 使い方をする方が、私の齢ではしっくりくるようです。

そういう意味で、先日アニメ映画「鬼滅の刃・無限列車編」がテレビで放映されているのを見ながら、この映画は「希望を託す」ことがテーマの1つなのかなと思いながら見ていました。映画を観た方はご存じかと思いますが、鬼を退治する集団「鬼滅隊」に入隊し修行中の炭治郎ら主人公たちが、「鬼滅隊」のリーダー煉獄杏寿郎と共に出くわした強力な鬼たちを、力を合わせやっとの思いで退治していく。しかしそのリーダー煉獄杏寿郎は鬼を退治した後に出てきた、別のより強大な力を持つ鬼と対峙し瀕死の重傷を負ってしまう。杏寿郎は亡くなる間際に、自分が倒せなかった強大な力を持つ鬼を退治してほしいという希望を託し「俺は信じる、君たちを信じる。」と炭治郎たちに語りかけ亡くなっていく、というストーリーでした(ネタばれすみません)。戦い抜いた煉獄杏寿郎の最期の言葉で、炭治郎たちが将来の自分たちの役割を強く自覚するのが印象的でした。

そういうJICもコロナという強力な鬼と戦いやっと光が見

えてきた時に、より強大な力を持つ「戦争」という鬼と対峙 し戦うことになってしまい早や 10 か月、状況はかなり厳し いです。でもまだJICは誰かに希望を託さないといけないぐ らい、戦う力を失ってしまっているわけではない、と私は思 います。

この「戦争」という強大な鬼と戦いぬいた後、私たちはなんらかの「希望」を見いだすでしょう。そして願わくば、それは誰かに「希望を託す」ことではなく、自分の手でつかみ取る「希望」でありたいものです。

ということで、戦う私たちと皆様にとって、2023 年がよ い年でありますように。

## ロシア語留学はいつも通り

小西 章子 (JIC 大阪)

大阪デスクで留学手配を担当しております小西です。 今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナに振り回された2年間を少しずつ乗り越え、まだ波はありつつも全国旅行支援がスタート、国内だけでなく海外旅行も徐々に増えつつあった2022年、ロシアのウクライナ侵攻によってJICはさらなる苦境に立たされました。それ以降、本誌読者の皆さまからたくさんの励ましのお言葉をいただき、感謝しております。

昨年1年間を振り返って、そんな難しい状況でも、ありがたいことにロシア語留学の問い合わせがなくなることはありませんでした。すでに2年以上留学の機会をうかがってこられた方も多かったように思います。ロシア語学科やコースがある学校でも、学校の語学研修プログラムをずっとストップさせたままにしたくないということで、オンラインでの語学研修や、ロシアに代わるロシア語研修先を探していく動きが増えたと感じます。

意外と勘違いされている方も多いのですが、実は、ロシア



聖ヨハネ教会(リガ)。ラトビアはロシア語話者も多く、ロシア語研修にもおすすめ!

への留学は、2020年の一時期を除いてずっと可能な状態が続いています。ビザも発給されますし、航空便も直行便は復活していないので少し遠回りにはなりますが、複数のルートから選ぶことができます。ロシアの大学や語学学校における受入態勢はコロナ前とほとんど変わっていません。

ただ、ロシアへの送金ができなかったり、クレジットカードが使えなかったり、大きな現金の持ち込みも事前の申請が必要だったり...、様々な難しさが存在することも事実です。昨年は対ロシア制裁の影響について正確な情報をご案内するのに苦労しました。今年も、留学される方には不安をできるだけ取り除いてご出発いただけるよう努めたいと思います。

個人的には、もうすぐ来る 10 年パスポートの更新が済んだら、私も早くどこか美味しいものを求めて旅行に行きたいなと思っています。口福は幸福!

今年も変わらずJICを応援していただけると嬉しく思います。

## 旅行業って楽しかったのだ

中林 英子 (JIC 大阪)

あけましておめでとうございます。今回のテーマは希望ということで、2023年は希望の光が見えると信じています。

昨年は観光業に光が見えてきたころにウクライナ戦争が起こり、私自身の生活も大きく変わり、他社へ出向しながら、ほんの少しJICの業務をすることになりました。今思うことは、旅行業って楽しかったのだということです。お客様の旅行のアレンジをするのも自分自身が海外旅行に行ったような気分になれたのだと思います。

現在、入国規制が緩和され、海外旅行に少し行きやすくなってきました。JIC のメインの渡航先であるロシアが外務省の安全レベル3のため、ロシアのツアーはもう少し先になりそうですが、バルト、コーカサスなどで個人では手配しにくい地域も出していこうと思います。地方を訪問し昔ながらの生活が残っている村、大自然を楽しんでもらいたいと思います。

私のコロナ後の初の海外は昨年5月のアイルランドでした。 久々に成田空港に来た時にいつも以上にテンションが上がり ました。アイルランドは3月初旬に入国に関するコロナ規制 が撤廃され、現地では全くマスクのない生活に開放感を感じ ました。「もうコロナは終わった」と感じた瞬間でした。そし て今年はみなさんに楽しい旅行のご案内できればうれしく思 います。

その中で私のお気に入り場所で、ぜひ見てほしい場所は、 ジョージアのカズベキです。10年ほど前の10月末に訪問し ましたが、すでに雪がちらつき、のんびりできるような気候



ではありませんでした。それでもカズベキまでの道のりの景色は息を飲むような美しさで山の変わりやすい天気とともに山の表情も変わり、片道3時間以上の旅も飽きることはありませんでした。道中、羊の群れに遭遇したり、非現実を体験しました。今度はベストシーズンといわれる緑に囲まれた夏の景色も見てみたいです。長めの休みがあれば、数日滞在して、大自然の中でゆっくりとした時間を過ごせれば最高です。コーカサスは日本からはとても遠いですが、ドーハ、ドバイ、イスタンブールなど経由地でも少し観光をしてトランジットも楽しめるとお得な気がしませんか?

今年こそは自由に海外旅行ができる年になりそうで今か ら楽しみです。

## 新たなディスティネーション

井上 沙弥香(JIC 東京)



アゼルバイジャンという国名を聞いて皆さんはどのような景色、またイメージが思い浮かびますか? 私は恥ずかしながらあまりアゼルバイジャンという国に対してイメージがわきませんでした。先日、アゼルバイジャンの現地手配旅行会社の担当スタッフさんが来

社し、アゼルバイジャンという国の魅力についてたっぷりと 紹介いただいたので、今回は皆さんに少しだけご紹介したい と思います。

アゼルバイジャンはアジアとヨーロッパにまたがるコーカサス山脈とカスピ海に囲まれています。近隣諸国にはワイ

JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(6)

ンで有名なジョージア、ロンギヌスの槍が保管されていたことで有名なゲガルド修道院のあるアルメニア、海を挟んだ反対側には地獄の門(タルヴァザ)のあるトルクメニスタンがあります。

首都バクーには世界遺産に登録されている旧市街があります。様々な民族の支配を受けた歴史背景があり、アゼルバイジャンの文化だけではなく、東洋と西洋がぶつかりあった文化が共存する独自の美しい景観をもっています。また首都には新しく建設されたモダンな建物も多くあり(私は絨毯をイメージした建物が素敵だなと思いました!)、快適でおしゃれでモダンな空間とノスタルジアあふれる旧都市の雰囲気を一度に味わうことができとても魅力的です。



#### 古都・シェキのシェキハーン宮殿(世界遺産)

首都の他、様々な地方都市をご紹介いただきましたが、個人的に是非自分も訪れてみたいと思ったのは「シェキ」という首都から300kmほどの場所に位置する都市です。コーカサス山脈の麓にある都市ということもあり坂が多いのですが、レンガ作りの建物がぽこん、ぽこんと立ち並んでいる様子はとてもかわいくて、それだけでテンションがあがります。シェキにある世界遺産の「シェキハーン宮殿」はこれまたヨーロッパともアジアともつかない不思議な魅力を放っています。このどちらともつかない不思議な魅力はオリエンタルな雰囲気の窓枠(私は日本の組子細工を思い浮かべました)にヨーロッパの大聖堂を彷彿とさせるステンドグラスがはまっているからなのかなと思いました。

この窓ですが接着剤や釘などを一切使わないこの都市の 伝統的な技法で作られた寄木細工とステンドグラスを合わせ て作られているとのこと(お土産用に小さなものもあるよう で是非ゲットしたいです)。

古き良きものをじっくりと味わいつつ、観光で疲れた一日 の終わりはモダンでおしゃれ快適なホテルでゆっくりと休息。 贅沢な旅行ができそうなアゼルバイジャンに今後期待が高ま ります!

## ポジティブに!



#### 五十嵐 真夕(JIC 東京)

新年おめでとうございます。一昨年に引き続き、昨年も「今年こそ観光旅行の復活に期待が高まります」という文章を新年の挨拶に入れましたが、ウクライナ侵攻によりその期待が打ち砕かれ、私たちJICにとってはさら

なる忍耐が必要になった 2022 年でした。言いようのない悲しさ、やるせなさ…今まで経験したことのない感情に戸惑うばかりだった昨年の春。今までは時々連絡を取り合っていた現地にいる友達とも、気軽に話せなくなってしまいました。そんな中でも変わらない日常を過ごしている自分。その剥離した感じがまた嫌で嫌で…。

それでも、明日はやって来る。だったらそんな感情もまっすぐ受け止めて、毎日を大切に過ごす。もうこれしかないなぁ、と思い、どんなことでもなるべく前向きに捉えて日々明るく過ごそうと心がけてきました。

昨年は実は自分の生活が大きく変わった年だったのですが、その心がけもあってか、身体的な疲れは感じるものの精神的にはわりとずっと平穏です\(^ $O^$ )/ どんな小さなハッピーでも大きく捉えて、2023年も大事に過ごしていきたいと思います。



このままでは規定の文字数に満たないので、最近ハマっている食べ物を最後に紹介しておきます。写真を見てください。これが何かわかりますか?中華圏で食べられている小籠包ではありません。また、ジョージア料理のヒンカリでもありま

せん。これはネパール料理のモモです!中には、スパイシーに味付けされたヤギ肉や鶏肉から作られた餡が入っています。 写真はスープモモといって、酸味のある辛いスープと一緒にいただくモモです。

最近ハマっていると言っても、ハマり始めてからもう一年 以上が経ちます。しばらくはなぜか弊社スタッフの岡本と一 緒に食べに行っていたのですが、岡本が大阪勤務になったの で、ついに一人でモモを食べに行くようになってしまいまし た (笑)。

岡本~!またモモを食べに行くぞ~!

## ダブルワーク、辛いけど楽し

キリチェンコ・オリガ (JIC 東京)

あけましておめ でとうございます。

2022 年は皆さん にとってどのような 年だったでしょうか。 コロナ体制の継続、 戦争...しかし、悪い ことだけだったでし ょうか。北京オリン



ピックでの冬季最多メダル数の獲得、日本のサッカーワール ドカップへの出場など、良いことも沢山あったかと思います。 さて、JIC はどうだったでしょうか。昨年に引き続きリモートでの活動がメインとなっていた JIC も、とうとう厳しい 決断をしました。コロナウィルスやウクライナでの戦争による観光客の減少により、JIC の社員は関係先の大きい会社へ

出向することになりました。
正直、非常にショックでした

正直、非常にショックでした。これからどうなるのだろうか。目の前には不安しかありませんでした。そんな時、ロシアでよく使われる言葉、「何があろうとも全ては過ぎ、人生は続く」が頭に思い浮かびました。人生における困難は時が過ぎれば、船の上の高波のようにおさまっていきます。このような状況に置かれた我々は、今目の前にあることに全力を注ぎこの時を乗り越えなければならないのだと言う考えと、未来に対する小さな希望が湧き上がりました。

私は企業の会計を行う会社に派遣されました。会計のことをあまり知らなかった私は、やはり不安でしたが、1回見えた希望を忘れず、ひたむきに新しいことに挑戦しました。辛い時もありましたが、家族や友人の支えのおかげで、希望を絶やさず、全力で取り組みました。

そして、時間が過ぎ、ある日、なんと部分的にではありますが、旅行業の仕事に戻ることが出来るという知らせが来ま

した。やっと自分が大好きな仕事を、仲間と共に再びできる。 これ以上にないほど嬉しかったです。

そして、ダブルワークという形で仕事が始まりました。日中は会計の会社で、帰宅後はインバウンドの旅行業務をこなすという、非常にハードな毎日の中で、辛い時は仲間と励まし合いながら、大好きな仕事を何とか再開することが出来ました。日本を訪れたお客様からの感謝の言葉ほど嬉しいものはありません。

これから旅行業の方が忙しくなり、本業への完全復帰ができる日を、私は希望を絶やさずに待っております。みなさんも、どのような困難にぶつかっても、希望を絶やすことだけはせずに、最後まで頑張り抜いてください。



## 前に進む!

モロゾフ・デニス (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

昨年は本当に大変な年となってしまい、私の生活も心境も 一変しました。

ロシア観光客向けの日本事情を今までにない角度で発信しようと始めた YouTube チャンネルが好調に伸びようとしていた矢先にウクライナ侵攻のニュースが突如飛び込んできました。正直、信じられませんでした。耳を疑ってしまいました。このとんでもないニュースは自分がコロナにかかってしまった時期と重なり、拷問にも思えるような時間が私を完全に飲み込みました。自宅の小さな「隔離」部屋に閉じ込められ、昼夜問わずロシアとウクライナのニュースを目にして耳にしていくと、気持ちが追いつかず、思わず何度ども吐きそうになりました。

自分が信じて育った価値観、世界をファシズムから救った 国に生まれきた誇り、何もかも崩れました。戦争が始まって まもなく一年が経とうとしていますが、その間に起きてきた 事を私は未だに咀嚼できていません。心には埋まりそうにな い大きな穴がぽっかり空いたままです。

しかし、日常生活とは本当に不思議なものです。飛行機で 10 時間も飛べば辿り着ける地でロシア人とウクライナ人が 殺し合いを行っているのに、戦争勃発から3か月も経てばそ れを当たり前かのようにテレビで見ている自分がいました。

「戦争慣れ」、絶対にあってはならないと自身に言い聞かせてもどうやら人の脳みそは限界があるようです。それにお金を稼がないと生きていけないという現実もあります。今までほぼ趣味でやってきた動画撮影や編集を本格的にやり始め、なんとか今まで「生き延びて」きました。

新年の抱負とやらを敢えて書くと、後戻りができない新しい現実と共存すること、日本事情発信の YouTube チャンネルを再開する事、そしてとにかく前に進む事です。妻の実家で恒例となっている書初めにも「進」という字を書きました。皆さんも、色々あるとは思いますが、前に進んでいける年になったらと心から願っています。(写真は筆者撮影の一枚)

## 折れないように

荒川 好子(JICペテルブルグ)

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよ ろしくお願いします。

От всего сердца поздравляю вас с наступающим Новым годом и Рождеством!

Пусть 2023 год принесёт с собой только добрые перемены и наполнит наши сердца теплом и радостью!

私がロシアに来て 10 年ぐらいたったころ、何かにくじけたり、挫折したり、頑張れなくなったりするという意味で「心が折れる」という言い方を初めて聞いて、「あれ?変じゃない?」と、違和感を感じたのを今でも覚えています。

デジタル大辞泉(小学館)によると、2000年代半ばからスポーツ選手が使うようになって一般に広がったそうで、「心が折れる」という言い方は新しいようですが、実はよく似た「心折れる」という「が」のない言い方が古くからあったそうです。

日本国語大辞典(小学館)によると、「心折れる」というのは「気持を相手側に曲げる。心がやわらぐ。気がなごむ。また、心が弱くなる」という意味だそうです。私のイメージでは、今の「心が折れる」というのは、強張って緊張状態というか固くて細い棒みたいな心が、負けないぞ!と何かに反発するんだけれども、圧力に耐えられなくてポキっと折れてしまうようなイメージですが、「が」がない「心折れる」のほうは、やさしく、ふにゃっていうイメージでしょうか。

私がロシアにいる間に、いつのまにか日本人の心は形を変えて「折れる」ようになり、そして、今ではロシアで暮らす

私の心も結構簡単に折れそうになることがあります。

心がポキっと折れないように、穏やかに、しなやかに、自 分にも周囲にもやさしい気持ちで、2023 年も生きていきた いと思います。

世界中のみんなの心が和らいで、みんなの心が早く癒されて、やさしくほんわか穏やかに暮らせますように。

2023年もどうぞよろしくお願いします。



## 今年がどんな年になるか

チスティリーナ・イリーナ (JIC モスクワ)

皆さん、あけましておめでとうございます!

素敵な一年になりますように祈っています。2023年もどう ぞよろしくお願いいたします。

2023 年はどんな年になるでしょうか。毎年この時期になると、多くの人は一年の抱負について考えて、希望を持って未来を見てるでしょう。個人的な今年の抱負は「世界の不完全さを受け入れて、自分にできることを頑張る」ということにしました。

ふわっとしているかもしれませんが、これが今自分の中にある考えだと思っています。この数年間にいろいろなことが起こりましたが、その結果は自分でコントロールすることができません。コントロールできないとストレスを感じます。私にとってストレスはネガティブな感情です。もちろん、生きている上でストレスは完全に避けることはできません。世界は変わり続けて、自分の価値観や生活を見直すことを求められていますから、ストレス解消の習慣をつけることは重要だと思います。最近、綺麗な朝日が見たくなり、本をもっと読みたくなります。そして、海の音を聞いて都市の轟音を消

したいと思います。

ちなみにロシアではストレスを感じている人が多いようです。統計によると、抗うつ薬の売上はほぼ2倍増しています。人間は様々な困難を経験して失敗から学ぶことが必要です。未来にそれは開発につながります。

世界の人々の幸せと平和の 2023 年となることを心から願っています。

## 私たちの努力次第ですね

キクチ・リュボフィ(JIC 東京)

みなさん、新年あけましておめでとうございます。 2022年は、どんな年でしたか?

世界がコロナと共に生き慣れたら、新たな悲劇が起こって しまいました。想像したことないものが事実になっていまし た。当たり前のことがそうでなくなりました。それで、2022 年の漢字は「戦」となりました・・・

が、どんな時も感謝と笑顔を忘れてはなりません。そして、 命の儚さも忘れてはなりません。全てがそもそも当たり前で はありませんでした。私たちが全てを持っているのは誰かの 努力のおかげです。

個人的にも色々ありました。が、2022年を乗り越えて2023年を無事に迎えました。

この間、日の出の陽光で目覚めました。不思議な感覚でした。特別なことではなくごく普通のことですが、幸せを一杯感じました。



2022 年はほぼずっと東京にいましたが、紅葉時期のある日、 日帰り旅行をしました。サン・テグジュペリの「星の王子さ ま」が好きなので、ずっと前から箱根にある星の王子さまの ミュージアムを見に行きたかったのです。コロナの影響で 2023 年 3 月にミュージアムが閉園されるから、チャンスを 見逃してはならないと思い出発しました。サン・テグジュペリはどんな人生を過ごしたか、歴史に触れ、知識を増やして、 星の王子さまの世界で歩んで感動しました。紅葉もとても綺麗でした。

2023年は、どんな年になるのか。 これが、私たちの努力次第ですね。頑張りましょう。



## 金魚

竹村 貢(JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

去年の11月に近所のお祭り行くと、息子たちが金魚すくいをしたいと言ってきました。水換えなどの世話が大変なので、私はあまり乗り気でなかったのですが、子供たちはやる気満々で、もし金魚すくいをやらないで家に帰ったら、かなり面倒な予感がしたので、金魚すくいをやらせました。

モナカですくうタイプの金魚すくいで、1、2匹しかすくえなかったのですが、お祭り最終日の遅い時間でもあり、サービスしてもらって、合計9匹をビニール袋に入れて子供たちは大満足して家〜帰りました。

金魚を飼う入れ物は、小さい虫かごぐらいしかなかったので、ホームセンターで水槽セットと砂利、水草を購入しました。小さいとき金魚を飼ったことはあったのですが、自分で掃除や世話をしたことがありません。水道水が金魚に悪いことは知っていたのですが、どうやってカルキを抜くかネット調べると、バケツに水を入れ1日放置するとカルキが抜けるようなので、翌日までカルキ抜きをしてから金魚を水槽に移しました。

金魚は餌の与えすぎや水温の急激な変化に注意しなければなりません。飼い始めて間もない頃、子どもたちが餌をあげたいというので、少しだけ餌をあげてねって言ったのです

が、少し目を離した間に大量の餌が水槽に入っていました。 金魚は餌があればあるだけ食べてしまうの食べ過ぎて悲しい ことに5匹ほど消化不良により死んでしまいました。それか ら2カ月近くたち、今では4匹となってしまいましたが、金 魚は元気に泳いでいます。

金魚を見ていると、餌が欲しいアピールなのか、元気よく 泳いで踊っているように見え、平和そうでいいなぁって思い ます。長生きしてもらえるように、大切に育てていきたいで す。

それでは、今年もよろしくお願いいたします。



## 学びの年に

柳沢 昭子(JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

2022年の「今年の漢字」は『戦』でした。2022年はJIC にとっても「戦いの一年」でしたが、みなさまはいかがでしたでしょうか。

弊社は本年もまだまだ戦いの渦中にありますが、切磋琢磨 しながら、七転八倒しながら、そしてみなさまのあたたかい 支えを胸に前へと進んでいきたいと思います。

私は、現在、読書に挑戦をしています。以前、「水滸伝」に相当はまった時期があります。私は特に北方謙三氏の書いた「水滸伝」が大好きです。北方「水滸伝」は全 19 巻ありますが、19 巻を読み終えるたびに、再び 1 巻から読み始め、その時期だけで3回続けて読破しました。ですが、最近は読書から離れていたなぁ、とふと思い、さまざまなジャンルの本を手に取り目を通しています。ですが、「目を通す」という表現の通り、ハマるほどの読書にはなっていません。ハマる

ほどの作品に出会えることは、きっとラッキーなことなのだ と今更ながら実感しています。

そんなラッキーな出会いに期待しつつ、2023年は学びの1年にしていきたいと思っています。みなさまからの難易度の高いご相談にもお応えできる手配担当者となることを目指し、旅行以外の様々な分野も学び、吸収してまいりたいと思います。

本年が、みなさまにとって充実した、よい1年となります ことを祈っております。本年もどうぞよろしくお願いいたし ます。

### 引き続き日本を楽しもう

佐藤 早苗(JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年のこの記事では「日本を楽しもう」というタイトルで、まだ訪れたことのない日本の観光地を楽しもうということを書きました。あれから1年が経ちましたが、コロナが終息する兆しはなく、状況はほとんど変わっていません。変わったことといえば、海外からの入国者の水際対策が緩和され、訪日観光客は増えましたが、コロナ禍に加えて、円安、原油高による燃油サーチャージの高騰などにより、海外旅行のハードルはますます高くなっています。私も去年は一度も海外に行っていません。

その代わり?昨年秋に宮古島に行ってきました。

宮古島を訪れるのは約15年ぶりでした。15年前は妹家族と私の家族の家族旅行でしたが、今回は友人との女子旅(笑)。少し奮発してラグジュアリーなホテルを選びました。何と朝食にシャンパン飲み放題付きです!(さすがに飲みすぎるとその日1日棒に振ってしまうのでセーブしましたが(笑)。

沖縄は車での移動が便利ですが、あいにく二人ともペーパードライバー。ホテルがあるリゾート内は無料のシャトルバスがありますが、せっかく宮古島に来たからにはあの"宮古ブルー"が見たい!!

4日間の日程のうち、幸い後半2日間は快晴の予報だった ので、路線バスとタクシーを使っていざ離島へ!

最初に行った池間島は池間大橋という全長約1.5キロの橋を渡ります。行きはバスでしたが帰りはバスの本数が少なかったため、徒歩で渡りました。そのおかげでゆっくり絶景を堪能することができました。

行きのバスの運転手さんはとても親切な方で、私達が島の 後に行きたいところがあると言うと「もし時間が合えば停留 所じゃないところでもピックアップして送ってあげるよ」と 言ってくださいました。またタクシーの運転手さんはお釣り JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(11)

を多めにくれたので、返そうとすると「いいよいいいよ、僕 が間違えたんだからとっておいて」と。皆さん何とも大らか ですね。



来間大橋から見た"宮古ブルー"

翌日はさとうきび畑に囲まれた農道をレンタサイクル(電動)をこいで来間島へ。前日よりも天気が良かったので、来間大橋からは最高の"宮古ブルー"が見られました!

今回の旅行で痛感したのは、旅行を楽しむには一に体力、 二に体力ですね。これからも健康に気をつけながら、足腰を 鍛えたいと思いました。

最後に今年の希望ですが、今年こそは海外に、まずは韓国 に行きたいです。

### 「希望」

神保 泰興 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

コロナとの戦いの出口が見えてきていた昨年2月24日に、全く予想できなかった事態が発生し、私たちの業務も再び暗闇の中に突き落とされたようになって10か月以上が過ぎました。今のところ解決の糸口は全く見いだせないように思われます。

一方、秋以降、日本の入国(帰国)の制限の大幅な緩和と前後して、ロシアへの入国時における検疫上の制限も実質的に撤廃されたことを受け、昨年12月に思い切ってロシア(モスクワ・サンクトペテルブルグ)に行ってみました。渡航の詳細なレポートは、近々別の機会でお伝えしたいと思いますが、端的な感想を一言でいえば、「ロシア社会は、全く傷んでいないように見える」ということでした。欧米各国、日本による経済制裁のただ中ですが、日本でも報道されている通り、

マクドナルドやコーラなどが別の似たようなものに置き換わ った、iPhone が手に入りにくくなった、イケアやスタバが閉 店になった、というくらいで、少なくともロシアの一般市民 の生活に大きな支障は出ていないように見えました。もちろ ん「誰を困らせるための制裁なのか」ということもあります が。一方、ロシアで会った数人の友人・知人との会話の中で、 ロシア社会の中でも様々な意見があるであろう「戦争」にま つわる話題はお互いに注意深く避けたこともあり、現地で議 論を戦わせるようなことはありませんでした。ロシアのテレ ビニュースは確かに公式見解ばかりを流していましたが、イ ンターネットを遮断したりはしていないので(一部の SNS は除く)、私たちが触れているような情報をロシアの人たちが 全く得られていないということもない様子でした。それだけ に、現地に行ったことで先の見通しがつくようになったとい うこともないのですが、一つだけ今回の訪ロで皆様へ先に紹 介しておきたいエピソードがあります。

今回、どうしても1か所行きたかったところがありました。 以前、添乗で二度ほど訪れたことのあるサンクトペテルブル グの「ピスカリョフ墓地」です。第二次大戦中、ナチスドイ ツ軍に900日に渡って包囲されたサンクトペテルブルグでは、 70万とも、110万とも言われる犠牲者が出ましたが、そのう ちの約50万人近い遺骨が埋葬されている共同墓地です。十 数年前からガイドブックにも載らなくなり、内外の観光客か らはすっかり忘れられた存在となったこの場所ですが、この 情勢下どのような様子なのかがとても気になっていたからで す。マイナス 10 度近い冬の寒空、しかも訪問したのは日曜 日の午後3時過ぎ、冬では間もなく日没という頃合いでした が、すでに薄暗くなったその時でも数名の市民が献花したり、 散策したりしていました。ただ亡くなった年だけが墓石に刻 まれた、いくつもの小山のようになっている埋葬場所で手を 合わせながら、戦争の悲惨さと犠牲になった人々を悼む心を 忘れない人たちが、ロシアにも間違いなくいることを確かめ、 まだ時間はかかるかもしれませんが、必ず事態は好転するは ずだとの希望を心に刻み、墓地を後にしました。

今年もどうぞよろしくお願い致します。



モスクワにて、旧知の通訳ボルコフさんと

JIC インフォメーション第 222 号 2023 年 01 月 10 日発行(12)

## 「希望を持つこと」と「諦めが 悪いこと」の区別は難しい

岡本 健裕(JIC大阪)

またロシアが世界に迷惑をかけています。しかもびっくり するほどお粗末で、あきれた醜態をさらしています。もとも とロシアはやっかいな国なのですが、今回もずいぶんと思い 切りよく、ダメな方向へ全力疾走しています。本当にどうし ようもありません。

ロシアが自分で自分を台無しにしているだけならば、それも一種の愚行権というか、彼らの選択なので、好きにさせておくこともできましょう。しかし今ロシアは、本気で、私達の目の前で、隣の国を消滅させようとしているのです。絶対に黙って見ていてはいけません。ロシアのような国にこれを許したら世界が滅びます。アメリカもやってるじゃないか、という指摘はもっともですが、あちらはもう少し巧妙なのです。

私の仕事は旧ソ連諸国を相手にしています。と言うと、お前はロシアの味方をするのか、と思われることがあります。

味方ではありません。あんな国の肩を持ってはいけないのです。ではなぜ私は、ロシアへ渡航する人を手配し続けるのか。それは、「世の中がロシアのことをどれだけ知っているか」に世界の安全がかかっていると確信しているからです。

だから多くの人にロシアを経験してもらいたい。世界の安全保障の大きなリスクであり続けるユーラシア地域一帯に関心を持ち、とりわけ油断ならない敵国として、ロシアのことを深く学ぶ、という方にこそ、これからどんどんロシアに行っていただきたい。そう考えているのです。

ロシアを研究する専門家はもちろん、ロシアに友人がいる人、家族がいる人、そしてロシアと戦う人、みんな、ロシアのことを知らなければ、うまくいきません。私達は、そのお手伝いをしています。仲良くするのも、喧嘩するのも、留学するのも、取引するのも、人的交流がなくては成り立たず、それをサポートする裏方はきっと必要です。日本の民間でこの仕事ができるプロは、私達のほかに、ほとんどいないのです。

などと自画自賛してみたものの、現実は厳しく、お客様は 激減、JIC は虫の息です。そして今、私は大阪にいます。独 立採算でJICを維持することがどうしてもできなくなったの で、私はグループ会社に出向しながら、なんとか JIC の業務 を継続しているのです。それもこれもみんな、アホのロシア が盛大に悪事を働いているせいです。

大阪の出向先での仕事は幸せにも良き上司、良き同僚に恵 まれています。そもそも私は以前から大阪勤務を切望してい ましたから、思いがけない形で願いが叶えられたわけです。 そこだけは、ロシアのおかげと言えなくもない。でも総じて ロシアはクソです。クソクソクソ。

ああもう!取り繕うのはやめます。そうです私はロシアのことが好きです。好きですとも。だからつい、夢見てしまうのですよ。いつかロシアが、国際社会で、ひとかどの国として、暴力に頼らずとも一目置かれる存在になる日を。人類初の宇宙飛行を成功させたときのように、また私達に新しい世界を切り拓いて見せてくれる瞬間を。この期に及んで私は、まだそんな希望を持ってるんです。バカですよね!



大阪・梅田のロシア料理店にて

## ◇◆編集後記◆◇

▼ギリシャ神話によれば、全能の神ゼウスは人間界へ行くパンドラにあらゆる悪と災いを封じ込めた箱を持たせました。好奇心にかられたパンドラが開けた箱からは、疫病、嫉妬、怨恨、悲嘆、欠乏などさまざまな災いが飛び出したが、箱の中にはただ一つの良き物=「希望」だけが残されていたといいます。▼まさにロシアのウクライナ侵攻はパンドラの箱を開けた如く、全世界に不幸の種を撒き散らしたかのようです。国土を戦場にされ住む場所を追われたウクライナの人々、エネルギーや農作物の高騰で生活不安に見舞われる途上国の人々、インフレ、戦時下で進む強権政治…。コロナと戦争のダブルパンチを浴びたJICも最悪の経営難にあえぐことになりました。希望はどこにあるのでしょうか。▼「大変だろうけど頑張って!」と声をかけてくださるお客様

▼「大変だろうけど頑張って!」と声をかけてくださるお客様やロシア関係者の皆さん、他の仕事と掛け持ちで、夜遅くあるいは朝早くに JIC 業務に取り組み支えてくれるスタッフたち、JIC を応援してくれるすべての人が私たちの希望です。だからこそ、苦しくても JIC は元気いっぱい、まだまだ頑張ることができます。JIC インフォメーションも出し続けます。 本年もよろしくお願いいたします。 (F)